

平成8年度第3回日本生物物理学会議事録

日時：1996年4月6日 13：30-18：00

場所：愛知県中小企業センター（名古屋）

出席者： 宝谷会長、津田副会長、石渡副会長、垣谷、葛西、木下、桐野、郷（信）郷（通）、徳永、日比野、美宅、宮本、安永、柳田

欠席者： 豊島

報告事項：

1. 第3回東アジア生物物理シンポジウム開催予定（郷信）

郷委員より、韓国生物物理学会会長から第3回東アジア生物物理シンポジウムを2000年に韓国で開くという返事があったことが報告された。

2. 第2回東アジア生物物理シンポジウム開催（宝谷）：資料1

郷委員より、第2回東アジア生物物理シンポジウムに関する First Announcement（資料1）が送られてきたことが報告され、それをジャパンアメニティトラベルの福久さんに渡し300部の配布をお願いしたことが報告された。シンポジウムでの講演候補者を京極氏に文書の形で推薦する事になった。これまで、前回と同じ人が話さないという慣例になっているので、これまでのリストを手に入れて検討することになった。

3. 日本光生物学協会委員会報告（津田）：資料2

日本光生物学協会委員会の議事録（資料2）が報告された。各学会から、1万円ずつの会費で運営されていること、現協会長が前田章夫氏、次期協会長が和田昭允氏であることなどが報告された。

4. 編集業務の現状（津田）：資料3

吉岡書店からリアライズ社への移行が完了し、Automatic Schedule（資料3）に則って編集が行われていることが報告された。また、その採択状況についても報告され、ある程度全ての分野から採択されていることが確認された。

5. 賞選考委員会（葛西）

藤原賞に和田昭允氏を推薦したことが報告された。

6. [Physiology]のBiophysicsのセッションエディター（宝谷）

Japanese Journal of PhysiologyのEditorとして、曾我部氏を窓口にして葛西委員を推薦したことが報告された。

7. 生物物理から見た生命像の企画委員会（葛西）

葛西委員より、石渡委員・柳田委員により第3巻が計画されていることが報告された。現在、吉岡書店の好意でシリーズが続いているが、総括する人がいない。吉岡書店としてもシリーズもので出していきたいということである。今後は、葛西委員を企画委員長として、赤坂氏、津田氏、郷（信）氏の3名を加えた企画委員会を作り、対応していくことになった。

8. 第34回年会準備状況（宮本）：資料4

宮本委員より、年会の準備状況について報告があった。年会のサーキュラーを作成し、送付するので、名簿を若手の会等に提供してもらうよう要請があった。また、年会申込用紙の分野別専門委員の推薦の項が欠落してしまった。そこで、年会中に分野別専門委員の投票を行えるように手配し、郷（信）委員と石渡委員とを分野別専門委員選考員として対応にあたることになった。

8'. 第35回年会に関する報告（郷（信））

郷（信）委員より、第35回年会（京都）は、分子生物学会と同時には開催しないことが報告された。

9. 雑誌出版経費の見通し（石渡）：資料5

石渡委員より、会誌出版に関する経費について報告があった。広告に関しては、2号では、AE企画に一本化したことなどが報告された。木下委員から広告に関しては、これほど見込むべきではないとの指摘があった。その結果、隔月刊の場合には、年間300万円程度の余剰金が見積もられることが予想され、月刊化の場合には、赤字がでない程度で発行できることが予想されると報告された。美宅委員の質問で、月刊化したとき、年間を通しての総ページ数の予算が決まったうえで、その予算内で各号の本文のページを振

り分ける予定であることが確認された。この場合、ある号では本文のページ数が少なくなることも予想され、その点の了解も得られた。

9'. 決算報告（郷（信））：資料6

郷（信）委員より、平成7年度の決算報告（仮）がなされた。吉岡から学会センターに業務を移行した際に機関会員の減少したことが報告された。郷（信）委員より、物理学会では機関・賛助会員の減少に関して慎重に議論しているとの指摘があった。今後、賛助会員の学会における取り扱いについて検討する必要があることが確認された。木下委員より、広告費が木下委員の手持ちの書類と異なることが指摘され、この点を踏まえて、最終的な決算報告は次回の運営委員会に提出することになった。

10. 会員・物理学会担当の報告（垣谷）：資料7

物理学会春の年会での生物物理コーナーに関する会計報告及びコーナー実施の印象についての報告があった。4名が入会し、「生物物理の最前線」が38冊売れた。今後も、続けて行くべきであるとの確認が得られた。

11. 運営委員・支部長のリスト：資料8

運営委員・支部長のリストが配布された。

12. 米国生物物理学会（石渡）：資料9

米国生物物理学会に参加した石渡委員より、運営方法等について報告があった。日本と比較すると physiology の分野が多い印象を持ち、年会は収益をあげるべきものであるとの視点が日本と大きく異なっているなどの点が報告された。また、非会員の参加数が多いことも特徴である。

13. 若手アムステルダムへの援助

IUPABの援助に関し、日本から23人の申し込みがあり、6人の援助を行うことになったことが報告された。3名が旅費・登録費免除、3名が参加費免除（11万円の費用を日本側で負担）となり、更に、国内で6名の若手に12万円の援助を行うことが報告された。一研究室一名で選んだ。

議題：

1. 平成8年度第2回日本生物物理学会運営委員会議事録承認（宝谷）：資料10
宝谷会長より、議事録案が提出された。シンポジウム企画の責任の所在に関して「年 会のシンポジウム企画を運営委員会が一部責任をもつ」と改められた。会員増のための方策に関して「新入会員の会費は、自動引き落としも可能にするよう努力する」と改められた。また、葛西委員から研究成果公開発表（B）（報告事項3）の申請は却下されたことが報告された。

2. 「生物物理」96年4号の編集方針について
月刊化の際、各号の本文のページ数が少なくなると予想される。そこで、ページ数の減少が会員にどのような印象を与えるかについて検討するために、学会誌96年4号で30ページくらいの本文の編集を行うことが提案され、了承された。

3. WWWのホームページの編集方針
美宅委員よりWWWのホームページの編集方針について提案があった。1) 各文章の文責を明らかにすること。2) 出来る限り link を張る形で実現すること。link 形式は既に年会と若手の会の2つある。今後は、学会ニュースも link 形式にすることになった。1) と2) の提案は了承された。また、会員の申し込み等を HomePage で行うことなども検討されたが、現状では難しいので、申込用紙の送付のお願いを会長室にお願いするという方向で進めていくことが了承された。

さらに、郷（信）委員からホームページは学会の責任であることと雑誌と同等に扱うことが確認された。宮本委員から学会のホームページにロゴマーク等を入れること、ホームページの記事の最終バージョンの日付を入れること等の提案があった。

4. ブルーバックスの「生物物理小事典」（美宅）
講談社からの「生物物理小事典」の発刊が2月に決定し、それに伴い、一年くらいをめぐりに作業を進めることが美宅委員より報告された。専門委員の人を中心に項目 集めを行い、執筆にはいることが確認された。印税は、全て学会の収入とする。会誌 の編集委員会の中で小委員会を作り検討することになった。

5. 編集実行委員の選出（美宅）：資料11
美宅委員より、新編集実行委員が5名選出されたことが報告され、承認された。5名とその理由は、以下の通りである。神谷（律）（東大・理）運動系、市川（電総研）脳神経系、

楠見（東大・教養）細胞膜、栗原（名大・工）膜・物理化学・女性、樋口（京大・理）構造・若手。編集会議は年6回、内3回は全体で、残り3回は小さめで開く予定であることを報告した。郷（信）委員から編集の立場から分野別専門委員はどのように役に立っているかとの質問があり、美宅委員から記事の査読者になっていただいているが、50人全員が査読者になっていただくことはできそうもないとの回答があった。郷（信）委員から分野別専門委員の方にシンポジウムの提案のお願いをするなど、もっと学会に参加してもらえぬ形を作れないかとの提案があった。津田副会長から小事典等もあるので分野別専門委員を役立てたいとの回答があった。

6. 編集実行委員の任期（津田）：資料12, 13

津田委員より、第2号（4月号）まで津田委員が編集委員長を行い、第3号（6月号）より美宅委員が編集委員長を行うことが報告された。更に、号数と編集委員との関係を合わせるために、資料12にあるように1月から12月までを編集委員の任期とするよう変更することが提案された。それに伴い、資料13にある編集実行委員選考規定案が提案された。一年前の年会の際の新運営委員会で決定し、任期は2年とし、留任は可能とすることが提案された。また、次期編集長として選ばれた後、一年間は編集委員として編集に携わり、編集委員長任期終了後、前委員長として編集に携わるようにし、編集作業が滞りなくすむようにすることが提案された。また、委員長が年会の新運営委員会で決定された（現実的には旧運営委員会からの提案の承認事項となる）後、5人の名前を書いた投票により選挙を行い、12月の運営委員会で決定することが提案された。以上の提案について承認された。

7. 会誌の月刊化の検討（津田・石渡）：資料14, 15

会誌の月刊化について、経済的問題と情報誌化という観点からこれまで検討されてきたが、リアライズ社への移行が完了したと急速なインターネットの普及との関わりなどを視点に入れた再検討が必要であると提案があった（資料14, 15）。葛西委員より、合併号やニュースのみの号を作るという案が出た。また、郷（信）委員より、WWWとの絡みもあるが、吉岡書店との関係も考慮して、一年延ばすという案も検討すべきであるとの意見が出た。

7月の運営委員会にて結論を出せばよいことが確認され、7月の運営委員会での検討議題とすることとした。

8. 予稿集の予算計上の整合性（宮本）：資料16

宮本委員より予稿集の予算の整合性をとるための案が提案された（資料16）。葛西委員より、年会開催地でないと広告が集まらないとかプログラム・インデックスのお金をどうするか等の問題があったが、学会誌が7号出ている形で予算的には可能であったとこれまでの経緯について説明があった。学会誌7冊の形で supplement として発行されていること、広告収入は年会側が管理するのは、年会側の奮起を促すためであることなどが確認された。

来年度からの扱いに関して、桐野委員より細胞生物学会は年会事務所で予稿集を出している例などが紹介され、木下委員と宮本委員から予稿集の事業部制に賛成であるとの意見があった。年会と運営委員会との関係をより密にしている点を考慮しながら、桐野委員を中心にどの様に整合性をとるべきかを検討することになった。

9. 平成8年度選挙要項の承認（郷（通））：資料17

平成9-10年の学会委員、会長、科研費委員の選挙を会誌の3号で公示し、選挙を行うことが示された。その為の公示案が資料17として提示された。郷（信）委員より、分野の偏りが出来ないように選挙が出来ないかという提案がされた。特に、2年前は分野の偏りの有無が話題になったが、美宅委員からでた、10年単位で平均的になっていけばいいのではないかという意見でまとまった。

10. 平成9・10年度委員候補者の補充の件（郷（通））：資料18

郷（通）委員より、現在、20名が推薦されているが、候補者が足りないので、120名前後になるまで補充するために、運営委員より推薦することが示された。特別推薦3名（一人でも運営委員の推薦があれば確定）一般推薦（50人）を推薦するようにし、100~120名まで補充する。

11. 次期会長候補3名の選出（郷（通））：資料19

始めに、郷（通）委員が、53名の学会委員に次期会長候補者を3名連記で推薦して頂いたこと、また、得票数が多かった候補者を得票順（資料19）に報告した。松本氏を除く4人が現運営委員であるため、この4人には、その場で候補者の抱負を語って頂いた。一昨年度は、第3回運営委員会中でこの候補者の中から運営委員による選挙を行って次期会長候補者の順番をその場で決定し、その後、現会長が上位の候補者から順に了解を得て、次期会長候補者3名を決定した。しかしながら、本年度は、運営委員による選挙の準備が

できていなかった。そこで、本年度は、後日、郵送でこの選挙を行いその結果をもとに、上位の候補者から会長が説得をし、候補者から了解を得、次期会長候補者3人を決定する手順で行うことが了承された。

(補足)

運営委員による選挙の結果、上位3人(五十音順)は、郷(通)氏、津田氏、松本氏であった。その後、会長の説得により候補者からの了解が得られ、この3名が次期会長候補者となった。

1 2. 広告獲得に要する費用を予算に計上する件(木下) : 資料20

広告・宣伝用として学会誌を毎号200部余分に増刷することが報告された。さらに、木下委員より広告獲得の為に動く費用が必要だが、それらの予算が計上されていないのでどうすればよいのかという意見が出た。宝谷会長より実費は会長まで請求すれば出せるので請求して欲しいとの意見が出た。木下委員からは、事業部制にした方がよいのではという意見が出されたが、次期予算作成時に考えることで合意した。

1 3. 谷口シンポジウムの企画(宮本)

谷口シンポジウムが、残り3回で終了する。企画委員会(田崎氏)から、最後に年会で記念シンポジウムを開きたいとの問い合わせがあった。ただし、このシンポジウムのプログラム編成権は生物物理学会にはない。98年の年会の中で、谷口シンポジウムを行うことが認められた。

1 4. 会員名簿の作成(宝谷) : 資料21

宝谷会長より、会員名簿作成のために毎年50万円ずつプールしており、会員名簿の発行を今年度行うことが提案された。津田委員より、既に1年分よけいにプールされているとの報告があった。現時点では、名簿作成費の見積りが出ていないので詳細は分からないが、名簿作成及び更新による赤字が予想される。この点をふまえて、木下委員より、有料化も検討に入れた上で出来る限り頻繁に改訂していかないと使いものにならないとの意見が出た。垣谷委員より、名簿の発行を前提に、予算等の問題に応じて有料化も検討するという提案があり、了承された。

1 5. 次期運営委員会の日時(宝谷)

次回は、7月6日（土）に名古屋に於いて開催されることが決まった。会場は、第3回と同じ場所を希望。